



日本臨床ストレス応答学会

The Biomedical Society for Stress Response, Japan

BSSR Japan NEWS LETTER No. 19

2024. 6.10

第 17 回臨床ストレス応答学会大会開催報告

第 17 回大会長 親泊 政一（徳島大学先端酵素学研究所生体機能学分野）

令和 5 年（2023 年）11 月 17 日（金）、18 日（土）の 2 日間にわたり、徳島大学蔵本キャンパスで、第 17 回日本臨床ストレス応答学会大会を開催させて頂きました。ご参加いただいた会員の皆様、関係者の皆様に心からお礼を申し上げます。本大会では、特別講演 1 題とシンポジウム 8 題を企画し、特別講演では中山敬一先生（東京医科歯科大学・高等研究院・特別栄誉教授）に「次世代プロテオミクスが拓く医学生物学の新天地：100 年来のがんの謎を解く」と題して、独自に開発された次世代プロテオミクス技術「iMPAQT 法」や AI 創薬手法「LIGHTHOUSE」を用いた癌治療薬の開発戦略についてお話しいただきました。シンポジウムでは、高深度オミクス医学研究拠点整備事業との共催で「オミクスで拓くストレス研究」と、AMED 革新的先端研究開発支援事業「プロテオスタシスの理解と革新的医療の創出」との共催で「プロテオスタシスからの疾患解明」というテーマで、革新的な基礎研究から臨床応用を目指すストレス応答研究が多数発表されました。また、一般演題においても、口頭発表とポスター発表が活発に行われ、若手研究奨励賞候補者発表では、新たな研究成果に基づく熱心な議論が交わされました。今年度の若手研究奨励賞は 4 名の研究者に授与され、彼らの今後の活躍が期待されます。新型コロナウイルス感染症の拡大以降、中止、ハイブリッド開催、完全オンライン開催を経て、今回ようやく対面のみでの開催に漕ぎ着けることができました。懇親会を含めて会員の皆様にとって非常に有意義な交流の場となり、新たな研究のアイデアや共同研究の機会が生まれたのではないかと考えています。本大会の開催に当たっては、企業からも協賛やご支援もいただきましたことに、あらためて感謝申し上げます。最後に、大会の成功に向けて準備と運営に貢献して頂きました学会事務局および教室員に厚くお礼申し上げます。今後も、ストレス応答の基礎研究者と臨床研究者が一堂に会して研究の最前線を討論することによって、ストレス応答研究の発展と会員の皆様が取り組む多様な科学的課題が解明されることを切に願っております。

令和 6 年 6 月

第 17 回日本臨床ストレス応答学会大会長

親泊 政一

日本臨床ストレス応答学会若手研究奨励賞

2023年度第11回若手研究奨励賞は、西頭英起選考委員長をはじめとする4名の選考委員の厳正な審査のもと、以下の4名の若手研究者の方が選ばれました。

時田 芹奈（札幌医科大学医学部病理学第一講座）

「プロテオゲノミクス技術を活用したHLAクラスI・IIネオアンチゲンの新しい予測法」

Jirapat Namkaew（徳島大学先端酵素学研究所生体機能学分野）

「ドラッグリポジショニングによる統合的ストレス応答を標的とした癌治療薬開発」

早田 萌花（東京農工大学生命工学専攻）

「アミロイド線維の脱凝集反応における分子シャペロンHsp104のN末端及びミドルドメインの役割の解析」

Akanksha Pandey（山口大学大学院医学系研究科医化学）

「Regulation of HSF1 condensate formation by TRIM proteins」

2023年度 若手研究奨励賞選考委員

西頭 英起（宮崎大学）選考委員長

江口 傑徳（岡山大学）

金関 貴幸（札幌医科大学）

武内 敏秀（近畿大学）

第 18 回 日本臨床ストレス応答学会大会のご案内

この度、2024年11月1日（金）～2日（土）に、第18回日本臨床ストレス応答学会大会を宮崎市民プラザにて開催させていただき運びとなり、大会長としてご挨拶申し上げます。

個体や細胞へ負荷される様々なストレス刺激への適切な応答は、生体機能の恒常性維持に不可欠で、その異常が多くの疾患原因となっています。近年、分子レベルで細胞ストレス応答のしくみが解明され、それを制御することによって人の疾病を治療し、予防する新たな研究が進んでいます。また、解明された病態分子メカニズムを標的とした化合物探索や分子の構造解析が近年では比較的容易になり、創薬に向けた研究開発も加速されています。生命科学研究の質と量、さらにスピードが大きく変革しようとする現在において、あらためてベンチサイドからの研究成果と、ベッドサイドからの研究成果をすり合わせ議論を深める場が必要と感じています。そこで、第18回大会においては、「臨床から基礎へ、基礎から臨床へ」をキーワードとして、ストレス応答に関する分子生物学、細胞生物学、臨床医学の研究者、医師、医療・保健関係者が一堂に会し、臨床応用に向けた議論を深めたいと思います。

このような観点から、本大会の特別講演では、超高齢社会を迎えた私たちが克服すべき脳神経疾患研究において、基礎研究者かつ臨床研究者として大きな業績をあげておられる高橋良輔先生をお招きして、最新のトピックスをご講演頂きます。シンポジウムとしては、「翻訳から紐解く病態と治療応用」と「老化を制御する多様なストレス応答機構」を企画し、計8名の先生方にご講演いただく予定にしております。例年同様に一般演題では口頭発表とポスター発表を行います。若手研究奨励賞も予定しておりますので、多数の若手研究者のご応募をお待ちしております。

まだまだ日差しが眩しい11月の宮崎で、皆さまの研究交流がさらに深まるとともに、議論沸騰することを願い、多数のご参加を心よりお待ちしております。

令和6年6月吉日

第18回日本臨床ストレス応答学会大会長

宮崎大学 医学部 機能生化学分野

教授 西頭 英起

The Biomedical Society for Stress Response, Japan

会期：2024年11月1日（金）、2日（土）

会場：宮崎市民プラザ

宮崎市橋通西1丁目1番2号

<https://www.siminplaza.com/access/>

39歳以下の若手研究者による優れた研究を表彰し奨励する目的で、「日本臨床ストレス応答学会若手研究奨励賞」を選考いたします。

詳細は演題申込方法をご覧ください。また、下記の特別講演、シンポジウム、セミナーを予定しています。

特別講演

11月1日（金）午後

高橋 良輔 先生（京都大学医学研究科臨床神経学）

「パーキンソン病の分子病態 - α シヌクレイン伝播仮説を中心に-

シンポジウム 1

11月1日（金）午後

「翻訳から紐解く病態と治療応用」

松本 有樹修 先生（名古屋大学大学院理学研究科 分子発現制御学グループ）

田中 元雅 先生（理化学研究所 脳神経科学研究センター タンパク質構造疾患研究チーム）

永井 義隆 先生（近畿大学医学部脳神経内科学教室）

阿部 洋 先生（名古屋大学大学院 物質理学専攻化学系 生物有機化学研究室）

シンポジウム 2

11月2日（土）午前

「老化を制御する多様なストレス応答機構」

小林 妙子 先生（東京大学医科学研究所 基礎医科学部門タンパク質代謝制御分野）

城村 由和 先生（金沢大学がん進展制御研究所 がん・老化生物学研究分野）

高橋 暁子 先生（公益財団法人がん研究会 がん研究所 細胞老化研究部）

井垣 達吏 先生（京都大学大学院生命科学研究科 システム機能学分野）

スイーツセミナー

11月1日（金）午後（予定）

ランチョンセミナー

11月2日（土）午後（予定）

The Biomedical Society for Stress Response, Japan

大会事務局:

第18回日本臨床ストレス応答学会大会事務局
〒889-1692 宮崎市清武町木原 5200
宮崎大学医学部機能生化学分野内
Tel: 0985-85-3127 Fax: 0985-85-6503
e-mail: bssr@med.miyazaki-u.ac.jp

大会参加費: 一般 5,000円 学生 2,000円 (事前申込)
事前申し込みの方はHPより参加登録の上、以下の口座に振り込みをお願い致します。

銀行名: 宮崎銀行 清武支店
番号: (普) 口座番号 284491
名義: 第18回日本臨床ストレス応答学会大会 大会長 西頭英起
(ダイジュウハチカイニホンリンショウストレスアウトウガツカイタイカイ タイカイチョウ ニシトウヒデキ)

- * お振込の際、ご所属と参加登録者名の記載(入力)をお願い致します。
振込用紙へ「例: 臨床大学 山田太郎」のように記載頂くか、ATMの場合は「例: リンショウダイガク ヤマダタロウ」のように入力ください。
- * 大会事務局からの参加費領収書につきましては、学会当日受付でネームカード(参加証)と一緒にお渡し致します。

参加申込方法:

参加登録は大会ホームページから登録してください。
<http://bssr.jp/endai/>

事前参加申込締切: 2024年10月11日(金)

懇親会費: 調整中

費用については決まり次第、学会参加者の方にメールにてご案内いたします。学会初日に受付でお支払いください。

演題申込方法：

本学会の一般演題発表者としてのお申込みは、一人一題に限られます。ただし、他の演題の共著者になることは差し支えありません。また、発表者は本学会員に限ります。申込みには事前参加登録及び年会費、参加費の振込みが必要です。

演題応募締切：2024年8月30日（金）

演題申し込み要領は学会ホームページをご覧ください。

<http://bssr.jp/endai/>

若手研究奨励賞について：

日本臨床ストレス応答学会では、若手研究者による優れた研究を表彰し奨励する目的で、「日本臨床ストレス応答学会若手研究奨励賞」を設けます。応募資格・応募方法・選考方法・授賞式に関する詳細は下記の通りです。

- 応募資格: 第18日本回臨床ストレス応答学会大会当日(2024年11月1日)において、39歳以下の若手研究者。
- 応募方法: 演題応募時、抄録ファイル（HPよりダウンロード）の一番下の「若手研究奨励賞に応募する」を選んでください。
- 選考方法: 若手研究奨励賞への応募演題は大会中に口演およびポスター形式でご発表いただきます。抄録と発表内容を4-5名の選考委員が審査し、5名程度の受賞者を選出します。
- 授賞式 大会1日目（11月1日）の懇親会において、会長より賞状並びに副賞（賞金）が授与されます。応募されるかたは懇親会への出席をお願い致します。

第18回大会実行委員会

委員長：西頭 英起（宮崎大学医学部機能生化学・教授）

委員：

足立 弘明（産業医科大学医学部神経内科学）

岩脇 隆夫（金沢医科大学総合医学研究所生命科学研究領域細胞医学研究分野）

鵜殿 平一郎（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科腫瘍制御学講座免疫学分野）

江口 傑徳（岡山大学大学院医歯薬総合研究科歯科薬理学分野）

門脇 寿枝（宮崎大学医学部機能生化学）

木村 洋子（静岡大学大学院農学研究科応用生物化学専攻）

杉山 崇史（宮崎大学医学部機能生化学）

徳永 文稔（大阪公立大学大学院医学研究科医化学）

The Biomedical Society for Stress Response, Japan

鳥越 俊彦 (札幌医科大学医学部病理学第一講座)
中井 彰 (山口大学大学院医学系研究科医化学講座)
永井 義隆 (近畿大学医学部脳神経内科)
村尾 直哉 (宮崎大学医学部機能生化学)
養王田 正文 (東京農工大学大学院工学府生命機能科学部門)
横田 伸一 (札幌医科大学医学部微生物学講座)

(五十音順)

大会事務局:

第18回日本臨床ストレス応答学会大会事務局
〒889-1692 宮崎市清武町木原 5200
宮崎大学医学部機能生化学分野内
Tel: 0985-85-3127 Fax: 0985-85-6503
e-mail: bssr@med.miyazaki-u.ac.jp

学会事務局:

札幌医科大学医学部病理学第一講座内
Tel: 011-611-2111 (内線26910) Fax: 011-643-2310
e-mail: BSSR@sapmed.ac.jp

< Expert Series No. 4 >

本学会の前身である「臨床ストレス蛋白質研究会」の創設当初からご尽力賜りましたアドバイザー、名誉会員の先生にご寄稿いただき、連載することとなりました。第4回目は、札幌医科大学名誉教授／札幌医科大学シニア URA の佐藤昇志先生です。

BSSR スピリットのさらなる発展を

札幌医科大学名誉教授
札幌医科大学シニア URA
佐藤 昇志

皆さん、大変ご無沙汰しております。日本臨床ストレス応答学会(BSSR)の年1回の学術総会にもここしばらくは不参加で失礼したままであります。しかし、BSSRは一貫して設立当初からの「細胞のストレス応答という生命の基本的現象、原理の生物学的理解」という理念を今日まで高く継続的に守られ発展されてこられました。札幌の地からいつも誇らしく思っておりました。設立時の一人のメンバーとして嬉しい限りであります。私は現

The Biomedical Society for Stress Response, Japan

在、自分自身の研究活動は行なっておりませんが、AMED や文科省、財団等の研究助成関係で審査委員等を通して、科学の進展のための礎の脇役の脇役を務めているところです。

これらの経験を通して日々強く感じることは、我が国の基礎研究への現実的危惧であります。ご承知のように基礎研究が質量共に細ってきているのは明らかであり、にもかかわらず研究成果をすぐに創薬に、あるいは実業に、という大きな流れはますます強くなってきています。創薬近し、実業近しの研究にしかおおきなグラントはつかなくなり、研究代表者は研究室維持のためにそのような“実学的”研究を並行して行うことを余儀なくされているくらいがあるのです。このこと自体はもちろんまずいことではありませんが、結果的にその研究室が本当に取り組みたい本質的な基礎研究、探究が否応なしに疎かになってきてしまっている、これが、おおくのわが国の生命科学研究室の実情でしょう。

それゆえ BSSR のような基礎研究の真髄をピュアに連綿とすすめることが今まで以上に必要とされてきていると、私は日々強く思うのです。

そもそも私が BSSR の前身の臨床ストレスタンパク質研究会に関わった発端は、専門とするがん免疫の基礎研究からでした。がん免疫を駆動するがん抗原を明らかにする研究でした。それらのひとつ、ラットやマウスの胎児由来線維芽細胞をたとえば活性型 ras 癌遺伝子でトランスフォームさせて腫瘍化し、ここに強く発現してくるがん抗原を解析すると、熱ショック誘導性の熱ショックタンパク heat shock protein (hsp) が誘導されてくるのがわかったのです。がんとは何か？トランスフォームとは何か？とこの基本現象にふかく興味を持ち、その当時京大におられ、すでに hsp47 で世界的業績を挙げられていた永田先生に連絡させていただきました。それ以降、文科省等の分子シャペロン班研究やいくつかの基礎学術領域の研究会に加わらせていただき、そして幸運にも臨床ストレスタンパク質研究会の設立、参加となったわけです。

素晴らしいのは前身の臨床ストレスタンパク質研究会も BSSR も、あえて対象研究領域を狭めることなく、いわば“分子細胞ストレス応答”という大まかなキーワードで生命科学の幅広い研究領域から様々な研究テーマを議論し続けてきたことと考えます。ゆえに、この研究会に参加し発表をきいていると大変勉強になり、自分自身の研究の拡がりに大きな参考になることが少なくありません。

そして少なくとも私自身に圧倒的なのは“分子細胞ストレス応答”の精巧な事実です。だれが、何が、こんな巧妙な機構をつくりあげたのか！？知れば知るほどの感動の連続で、その精巧さに驚き、人間的にしぜんに謙虚な自分になっていることに気づくのであります。時に、人生の生き方までこれらの事実に諭された場面も私にはすくなくありません。

私は 2012 年日本癌学会、2013 年日本病理学会を総会会長としてお世話させていただきましたが、これらの学会の会員の皆さんに是非このような基礎研究の真髄に接していただきたいと願い、あえて永田先生と京大森和俊先生に総会特別講演としてお願いした次第です。BSSR の国際的組織 CSSI (Cell Stress Society International) からも Dr.

The Biomedical Society for Stress Response, Japan

Calderwood がきてくれ特別講演を行なってもらいました。これらの総会の参加者には多くの斬新なインパクトを与えていただいた次第で、いまでも誇らしく思っています。

前身の臨床ストレスタンパク質研究会や BSSR が疾患研究に具体的に果たしてきている貢献もすくなくありません。病理学の様々な分野で folding disease, proteostasis 等は今日一般的概念でありますし、BSSR や CSSI がその礎であります。

本会の事務局は発足当時から私が教授をしておりました札幌医科大学第 1 病理にありますが、ご承知のように病理学は医科学の基礎でもあり、しかも生命科学のどのような領域、疾患にも視座を持たねばなりません。そのような意味で今も仰せつがっているのだと思います。常日頃きちんと事務局として、会員皆さんのお役に立てているかどうかはわかりませんが、今後ともよろしく願います。

期待する、そして高く愛する BSSR のスピリットのさらなる発展、熟成に心からのエールをおくりつつ、ペンを置きたいと思います。



(2005 年ポルトガル CSSI 会議で訪れたナザレの海岸。左から筆者、京大永田先生、札幌医大鳥越先生、同上口先生)

学会役員・幹事・評議員

学会役員（2022年4月1日～2026年3月31日）

会長	養王田 正文（東京農工大学）
副会長	岩脇 隆夫（金沢医科大学）
総務	木村 洋子（静岡大学）
会計	横田 伸一（札幌医科大学）
広報	江口 傑徳（岡山大学）
企画	足立 弘明（産業医科大学）
企画	徳永 文稔（大阪公立大学）
企画	永井 義隆（近畿大学）
企画	中井 彰（山口大学）
企画	西頭 英起（宮崎大学）
企画	鳥越 俊彦（札幌医科大学）
監事	鵜殿 平一郎（岡山大学）
アドバイザー	伊藤 英晃（東京大学）
	永田 和宏（JT 生命誌研究館）
	田中 啓二（東京都医学総合研究所）
	柴田 亮行（医療法人尚寿会大生病院）
	樋口 京一（名桜大学）
	大塚 健三（中部大学）
	藤木 幸夫（九州大学）
名誉会員	野村 馨（大月市立中央病院）
	佐藤 昇志（札幌医科大学）

学会幹事

青江 知彦	帝京大学ちば総合医療センターペインセンター
足立 弘明	産業医科大学医学部神経内科学講座
跡見 順子	帝京大学先端総合研究機構オープンイノベーション部門
池田 史代	大阪大学大学院生命機能研究科
石垣 診祐	滋賀医科大学神経難病研究センター
一條 秀憲	東京大学大学院薬学系研究科細胞情報学教室
今泉 和則	広島大学大学院医系科学研究科分子細胞情報学
今本 尚子	理化学研究所開拓研究本部今本細胞核機能研究室
岩脇 隆夫	金沢医科大学総合医学研究所生命科学研究領域細胞医学研究分野
鵜殿 平一郎	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科病態制御科学専攻腫瘍制御学講座免疫学分野
漆谷 真	滋賀医科大学内科学講座、脳神経内科
江口 傑徳	岡山大学大学院医歯薬総合研究科歯科薬理学分野
親泊 政一	徳島大学先端酵素学研究所生体機能学分野
甲斐 広文	熊本大学大学院医学薬学研究部先端生命医療科学部門分子機能薬学講座

The Biomedical Society for Stress Response, Japan

木村 洋子	静岡大学大学院農学研究科応用生物化学専攻
久保田 広志	秋田大学大学院理工学研究科・工学資源学部生命化学科基礎生命化学講座
小林 聡	同志社大学大学院生命医科学研究科医生命システム専攻
武川 睦寛	東京大学医科学研究所分子シグナル制御分野
田村 保明	札幌医科大学医学部病理学第一講座
徳永 文稔	大阪公立大学大学院医学研究科医化学
鳥越 俊彦	札幌医科大学医学部病理学第一講座
内木 宏延	福井大学医学部分子病理学
中井 彰	山口大学大学院医学系研究科医化学分野
永井 義隆	近畿大学医学部脳神経内科
西頭 英起	宮崎大学医学部機能生化学
原 勲	和歌山県立医科大学医学部泌尿器科学教室
古橋 真人	札幌医科大学循環器・腎臓・代謝内分泌内科学講座
堀 修	金沢大学医薬保健研究域医学系神経分子標的学講座
森 和俊	京都大学高等研究院
養王田 正文	東京農工大学大学院工学府生命機能科学部門
横田 伸一	札幌医科大学医学部微生物学講座
吉田 秀郎	兵庫県立大学大学院理学研究科生体物質化学II講座

以上 32 名（五十音順）

学会評議員

青江 知彦	帝京大学ちば総合医療センターペインセンター
秋吉 一成	京都大学大学院工学研究科高分子化学専攻生体機能高分子分野
足立 弘明	産業医科大学医学部神経内科学講座
跡見 順子	帝京大学先端総合研究機構オープンイノベーション部門
池田 史代	大阪大学大学院生命機能研究科
石垣 診祐	滋賀医科大学神経難病研究センター
一條 秀憲	東京大学大学院薬学系研究科細胞情報学教室
伊藤 英晃	東京大学大学院農学生命科学研究科応用生命化学専攻
今泉 和則	広島大学大学院医系科学研究科分子細胞情報学
今本 尚子	理化学研究所開拓研究本部今本細胞核機能研究室
岩脇 隆夫	金沢医科大学総合医学研究所生命科学研究領域細胞医学研究分野
鵜殿 平一郎	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科病態制御科学専攻腫瘍制御学講座免疫学分野
漆谷 真	滋賀医科大学内科学講座、脳神経内科
江口 傑徳	岡山大学大学院医歯薬総合研究科歯科薬理学分野
及川 大輔	大阪公立大学大学院医学研究科医化学
大塚 健三	中部大学
親泊 政一	徳島大学先端酵素学研究所生体機能学分野
小山田 正人	藤女子大学人間生活学部食物栄養学科
甲斐 広文	熊本大学大学院医学薬学研究部先端生命医療科学部門分子機能薬学講座
勝野 雅央	名古屋大学大学院医学系研究科神経内科
金関 貴幸	札幌医科大学医学部病理学第一講座
木島 敏樹	獨協医科大学泌尿器科学講座
木村 洋子	静岡大学大学院農学研究科応用生物化学専攻

The Biomedical Society for Stress Response, Japan

久保田 広志	秋田大学大学院理工学研究科・工学資源学部生命化学科基礎生命化学講座
桑田 一夫	岐阜大学大学院連合創薬医療情報研究科
小瀬 真吾	理化学研究所開拓研究本部眞貝細胞記憶研究室
後藤 知己	熊本大学教育学部養護教諭養成課程
小林 聡	同志社大学大学院生命医科学研究科医生命システム専攻
小林 正伸	北海道医療大学看護福祉学部生命基礎科学講座
佐藤 昇志	札幌医科大学医学部
佐原 弘益	麻布大学獣医学部
塩田 正之	大阪公立大学大学院医学研究科分子制御生物学
柴田 亮行	医療法人尚寿会大生病院
関山 敦生	大阪大学大学院薬学研究科先制心身医薬学寄附講座
祖父江 元	愛知医科大学
武内 敏秀	近畿大学ライフサイエンス研究所
武川 睦寛	東京大学医科学研究所分子シグナル制御分野
田中 啓二	東京都医学総合研究所
田村 保明	札幌医科大学医学部病理学第一講座
田村 裕	千葉大学
千葉 進	医療法人溪仁会札幌西円山病院
徳永 文稔	大阪公立大学大学院医学研究科医化学
鳥越 俊彦	札幌医科大学医学部病理学第一講座
内木 宏延	福井大学医学部分子病理学
中井 彰	山口大学大学院医学系研究科医化学分野
永井 義隆	近畿大学医学部脳神経内科
永田 和宏	JT生命誌研究館
西田 憲生	徳島大学大学院医歯薬学研究部遺伝情報医学分野
西頭 英起	宮崎大学医学部機能生化学
野村 馨	大月市立中央病院総合診療
原 勲	和歌山県立医科大学医学部泌尿器科学教室
樋口 京一	名桜大学人間健康学部スポーツ健康学科
久留 一郎	国立病院機構米子医療センター/鳥取大学医学部医学科ゲノム再生医学講座
藤木 幸夫	九州大学
古橋 眞人	札幌医科大学循環器・腎臓・代謝内分泌内科学講座
堀 修	金沢大学医薬保健研究域医学系神経分子標的学講座
増井 憲太	東京女子医科大学医学部病理学第一講座
増本 純也	愛媛大学大学院医学系研究科ゲノム病理学分野
森 和俊	京都大学高等研究院
山田 健人	埼玉医科大学医学部病理学・大学病院中央病理診断部
養王田 正文	東京農工大学大学院工学府生命機能科学部門
横田 伸一	札幌医科大学医学部微生物学講座
吉田 賢右	京都産業大学工学部生物工学科
吉田 秀郎	兵庫県立大学大学院理学研究科生体物質化学II講座

以上64名（五十音順）

The Biomedical Society for Stress Response, Japan

～ 国際会議のお知らせ ～



Home

FASEB Science Research CONFERENCES

Protein Aggregation: Polymorphic Species

Dates: June 28, 2025 - July 2, 2025

Scottsdale, Arizona

#PAPSRC

Registration coming late 2024

Conference Summary

For nearly 30 years, this conference has been the leading force in studying protein amyloids in disease and health, bringing together a diverse group of researchers. This year's program aims to increase knowledge and advance therapy by highlighting emerging findings by basic, translational, and clinical researchers and trainees, particularly early-career investigators, and those from historically excluded groups.

This conference's success is thanks to the broad integration of theoretical, biophysical, and molecular aspects of protein aggregation together with its medical implications. The recent progress in this area of research has been remarkable and this meeting will be particularly prescient in highlighting the significance of new developments.

Goals and Takeaways

- Molecular and structural basis of amyloid formation in disease
- The role of cellular machinery in regulating pathogenic amyloid formation
- New approaches to understanding the structure-function relationship of amyloid formation
- Therapeutic and diagnostic strategies for respectively limiting and detecting amyloid formation
- New roles of amyloids in the regulation of normal cellular processes

Program Topics

- The structural characterization of amyloids
- Mechanistic understanding of protein aggregation
- Molecular and cellular mechanisms of amyloid spreading
- The influence of amyloid shape in this process (i.e. structural polymorphism)
- Impact of fibril formation on proteostasis and vice versa
- The role of phase separation in neurodegenerative disease
- The development of novel therapeutic and diagnostic tools
- State-of-the-art emerging experimental and computational technologies
- Roles of functional amyloids in bacterial biofilm formation and long-term memory

Workshops

NEW: A Diversity, Equity, Accessibility, and Inclusion in Research Roundtable will be held at this conference. This new session will include discussions on current barriers to historically excluded groups and current initiatives in academia and other settings to counteract these barriers.

A Career Development Workshop will focus on "How to Maximize your Impact" which includes discussions about effectively using social media, choosing journals, and strategic meeting attendance.

In our Meet the Expert workshop, speakers from our sessions will host tables during lunch hour, providing early-career scientists with an opportunity to discuss their research and careers in an informal setting.

～ 事務局からのご連絡 ～

入会手続き：

学会ホームページから手続きをお願い致します。

<http://bssr.jp/nyukai/>

年会費：

一般会員 7,000 円 学生会員 3,000 円 企業賛助会員 50,000 円

※2023 年度より一般年会費が変更となりました。

以下の郵便口座へお振込ください。

加入者名：臨床ストレス応答学会

口座番号：02730-3-64452

大会ポスターについて：

第 18 回日本回臨床ストレス応答学会大会のポスターを事務局に用意しております。できるだけ多くの基礎・臨床研究者に参加していただくため、ポスターを配布して宣伝していただきますようお願い申し上げます。事務局まで必要枚数をお知らせ下さい。

日本臨床ストレス応答学会事務局

〒060-8556 札幌市中央区南 1 条西 17 丁目

札幌医科大学医学部病理学第一講座内 金関貴幸

TEL: 011-611-2111 (内線 26910) FAX: 011-643-2310

e-mail: BSSR@sapmed.ac.jp

ホームページ：<http://bssr.jp>